足立区少年軟式野球連盟

◆　大会に参加するチームへの注意事項　◆

ここに掲げる注意事項は、野球規則、競技者必携、東京都軟式野球連盟規則を基本とし
足立区少年軟式野球連盟が定めた規則です。主催する大会の試合に適用致します。
大会に参加するチームは必ず事前に確認して参加を願います。

【競技運営に関する注意事項】

1. ベンチ入りの人数
   - 監督30・コーチ28・コーチ29（ユニフォーム着用　20歳以上でなければならない）
   - チーム登録人数は、選手10名以上25名以内（背番号は0～99・主将は10番）
     なお、主将は「Cマーク」をユニフォムシャツの右袖または前面に限り掲出できる。
   - ベンチ入りは登録されたユニホーム着用の監督30番、コーチ29，28番と・チーム責任者・マネージャー・スコアラー の6名とする。　　【各グランドルールベンチ入り人数を確認すること。】
     但しチーム責任者・マネージャー・スコアラーのユニフォームおよび審判服（スラックスは除く）着用でのベンチ入りは不可とする。
   - 熱中症対策として、保護者2名までベンチに入ることができる。
   - 学童大会において守備の時間が長い場合（15分～を目安）健康維持を考慮して、本部、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。　　（当連盟はロスタイムはとらないので、給水後速やかに戻ること。）
2. 打順表の提出について
   試合開始予定時刻30分前までに、監督または代理人が本部に提出し照合を受けること。
   - 記載に間違いのないよう十分確認すること。（特に氏名、背番号）（登録された選手全員を記入する）
   - 30分前に来られないときには該当グランド本部に連絡を入れること。
     （ペナルティーを課す場合がある。）
   - 試合開始時及び試合終了時には9名以上いない場合はチームは棄権とみなす。
   - ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
   - 攻守の決定は、監督と主将および役員または審判員立合いのもと本部前にて行う。
     ※　監督、主将は背番号が確認できるようユニフォームであること。（代理監督、主将においても同様のこと）
   - 監督不在でも試合は認めるが、代理の場合は、打順表の監督覧に「代理」と必ず明記すること。
   - グランドルールの説明を受ける。

   ※試合日程及び試合開始時間は足少連公認試合が優先となります。各リーグ戦、その他ローカル大会の参加は考慮いたしません。
3. 試合前の練習等において、30・28・29番の登録された監督・コーチのみがグランド内にははいることができる。
   また、ユニフォームを着た監督・コーチはすべて練習に参加できる。
4. 試合開始前（グラウンドの準備中）の投手の投球練習はベンチ前で行わない。
   コーチャーズボックスより外野寄りで行う。また捕手はマスクを含み装具を着用すること。
5. 試合中むやみにベンチを離れグラウンドの外に出ないこと。
   - 許可なく離れた場合、再びベンチに戻ることはできない。

6. 試合中にプレイの邪魔をするような声を発してはいけない。（審判の判定を惑わす声も含む。）
   ・ベンチ内からの声だけでなく、応援席からの声も同様とする。
   ・投手が投球動作を開始したら投手の動揺を誘うさそうような声を発してはならない。
   （上記により投球動作が止まってしまった場合は、ボークを取らずに無効とする。）
7. 自チーム、相手チーム問わず選手や審判に対する全ての暴力・罵声・ヤジ・暴言は禁止する。
   （退場を課す場合がある。又、応援者等からのヤジおよび目に余る行為はチームの責任とする。）
8. グラウンド内及び近隣周辺は禁煙である。（練習でも同様。）
9. 抗議ができるのは、監督と当該プレーヤーのいずれか1名とする。
   ・打球がフェアかファウルか、投球がストライクかボールか、あるいは走者がアウトかセーフかという裁定に限らず審判員の判断に基ずく裁定は最終のものであるからプレーヤー、監督、コーチ又は控えプレーヤーが、その裁定に対して異議を唱えることは許されない。又どのような提訴もゆるされない。
10. 塁上の走者、あるいはコーチスボックスやベンチから守備側のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。
11. ベンチ内での電子機器（携帯電話・パソコン等）の使用及びカメラ、ビデオの撮影を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。指示用メガホンは、ベンチ内に限り1個の使用を認める。
12. 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けた時には、その程度を問わず球審は臨時代走の処置を行う。塁上の走者が負傷した場合で、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断した時は、臨時代走の処置を行うことができる。

【競技上の注意事項】

1. 捕手は補手用ヘルメットを着用しファウルカップを着用する。（少年・学童とも）
   ・審判員は口頭で着用の有無を確認する
   未着用が発覚した場合は、大会本部派遣理事が当該チーム監督と協議し対処を当該審判員に指示すること。
   （没収試合になることがある。）
   （大会派遣理事が不在の場合は、その日の責任審判が対処すること。）
   未着用にての事故等においては、連盟、本部ならびに当該審判員は一切責任を負わないものとする。
2. イニングの初め（投球練習後）に声を掛け合う際に、捕手はホームベースの前に出てはいけない。
3. 前の回の最終打者が捕手で投手の準備投球に間に合わない場合は、
   ・控え捕手がいる場合は、フル装備にて行うこと。
   控え捕手がいない場合は、控え選手が立ってキャッチボールを行うこと。
   上記2項目ともに投球数については制限しないが、正捕手が準備できたらワン・モア・ピッチとする。
   （監督・コーチは行う事はできない。）
4. 打者は打者席に入った後、打撃完了までむやみに打者席から出てはならない。
   （サイン確認は、打者席内で行うこと。）
5. 投手は打者が打者席にいて準備ができているのを確認してから投球を開始すること。
6. 試合が開始されたら、控え選手は、むやみにベンチから出てはならない（出迎え含む）。
   ただし、次のことを認める。
   （1）攻守交代時にファウルグランドで外野方向へのランニングすること。
   （2）攻守交代時に自チームの練習をベンチ前で見守ること。ただし球審の「プレイ」宣言までにベンチにもどること。
   （3）攻守交代時に外野手とキャッチボールをすること。

7. 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。

8. その回の先頭打者は、準備投球が終わるまでネクストバッターズボックスで、待機すること。
但し、ボールの行方をしっかりとみていること。

9. 試合終了後、両チームでグランド整備を行うこと。

10. タイムの制限

①守備側のタイム

・捕手を含む内野手が1試合に投手のところへ行ける回数を3回以内とする。なお、タイブレーク中となった場合は、1イニングスに1回行くことができる。ただし、投手交代の場合は回数に含まない。なお、5.10ℓ(2)は適用しない。

・投手交代の場合、投手と捕手の打ち合わせ(サインの確認)のために、準備投球の前あるいは後に少しだけ会話することは、捕手または内野手の回数に含まない。

・上記選手のタイム中に監督が投手のところへ行けば、選手のタイムと合わせて監督のタイムとしてもカウントされる。

・攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。(監督がマウンド(ファールラインを踏んだら)へ行くか投手を呼び寄せた場合も1回とカウントされる。)

②攻撃側のタイム

・攻撃側監督が作戦を伝えるために、タイムを掛けて選手を呼び寄せることは1試合に3回までとする。なお、タイブレークとなった場合は、1イニングスに1回行くことができる。

・守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。

③監督のタイム

・監督がタイムを掛けて投手の所へ行けるのは、1試合に3回までとする
(タイブレークは1イニングに1回)

・監督が明らかに選手を使って指示等をした場合は、監督のタイムとしてカウントされる。

11. 学童大会は、6回戦または時間制限とし試合開始後1時間20分を経過した場合は、新しいイニングに入らないこと。
(低学年大会は、5回戦、1時間20分に読替えること。)(3年生大会は、5回戦、1時間10分に読替えること。)
少年大会は、7回戦または時間制限とし試合開始後1時間30分を経過した場合は、新しいイニングに入らないこと。
決勝戦の制限時間は、1時間30分とする。
(3年生大会は1時間20分に読替えること。)　　(少年大会は1時間45分に読替えること。)
学童6回(少年7回)完了または試合時間が経過して同点の場合は、タイブレーク方式で試合を続ける。
継続打順で、前回の最終打者を1塁走者、その前の打者を2塁走とし、0アウト1・2塁の状態にして行う
2イニングを限度として行う。決着がつかない場合は抽選とする。

12. コールドゲームに関して

① 得点差によるコールドゲームは,4回終了時7点差とする。
(4年生以下の試合は3回終了時10点差、4回以降7点差とする。)

② 天候状態の為に、コールドゲームが宣せられた場合は、正式試合とする。

・4回を終了すればゲームは成立する。
(4年生以下はは3回を終了すればゲームは成立する。)

・4回以降、4年生以下は3回以降の均等回の得点で勝敗を決める。

13. 特別継続試合に関して

① 暗黒雨天などで、4回を過ぎまたは制限時間が過ぎて正式試合になって同点で試合中止となった場合は、特別継続試合とし中断されたところから再開する。

注1 選手は中止になった試合の打順表に記入した者以外は出場できない。

（投球数も継続し、ベンチに退いた選手は（投手、野手）その試合に再出場できない。）

注2 日程上、同審判員で行わない場合がある。

② 4回以前（正式試合にならない場合）でも特別継続試合とする。

③ 決勝戦については、再試合とする。

14. 投手の投球数制限について

投手の投球制限については肘・肩の障害防止を考慮し、1人の投手は、1日制限球数内を投球できる。

1日制限球数　学童 70球 （4年生以下は60球） 少年 100球

試合中に制限球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。

・投手が制限球数に到達していない場合で、他の守備についても再び投手に戻ることが出来る。

・やむ負えずダブルヘッダーの試合を行う場合も合計制限球数までとする。

・ボークで投げてしまった場合もカウントする。ただし牽制球は含まない。

・タイブレークにおいても投球制限数まで投球することができる。

15. 投手の投球並びに捕手の返球に関してボールをユニホームにこする行為を禁止する。

ただし、素手でボールをこする事は許される。（※行為があればボールを交換する）

16. 守備側の監督がタイムを要求し、打者を申告敬遠する意思を球審に示した場合はボールデットとしタイムのジェスチャーを行い、打者に対して一塁への進塁の指示を行う。複数の打者を連続して行う場合は一人目の打者が一塁に達した後、各々の打者に対して申告をうけて対処する。

17. 4年生以下選手は、投手～捕手間が14mでの大会以外で投手となれない。

18. 学童・少年における指名打者制度について

指名打者ルールを使用することができる。ただし「大谷ルール：二刀流選手」は採用しないこと。

（1）指名打者ルールは、次のとおりである。

① チームは、投手に代わって打つ打者（指名打者）（以下DHという）を指名することができる。

② 試合開始前に交換された打順表に記載されたDHは、相手チームの先発投手にたいして少なくとも一度は、打撃を完了しなければ交代できない。ただし、その先発投手が交代したときは、その必要はない。

③ チームは必ずしもDHを指名しなくてもよいが、試合前に指名しなかったときは、その試合でDHを使うことはできない。

④ DHに代えて代打者を使ってもよい。その代打者は以降DHとなる。退いたDHは、再び試合に出場できない。

⑤ DHが守備についてもよいが、自分の番のところで打撃を続けなければならない。投手は退いた守備者の打撃順を受け継ぐ。ただし2人以上の交代が行われたときは、監督が打順表を指名しなければならない。

⑥ DHに代えて代走者を使ってもよい。その代走者は以降DHとなる。DHが代走者になることはできない。ただし、臨時代走者になることはできる。

⑦ DHは、打順表の中でその番が固定されており、多様な交代によって打撃の順番を変えることはできない。

（2）指名打者の役割が消滅する場合は、つぎのとおりである。

① 投手が他の守備位置についた場合。

② 代打者または代走者が試合に出場し、そのまま投手となった場合。

③ 投手がDHの代打者または代走者になった場合。

④ 打順表に10人のプレーヤーを記載したが、DHが特定されておらず、試合開始後にその誤りが球審に指摘され、投手が打順表に入った場合は、投手が置きかわったプレーヤーは交代したとみなされ、試合から除き、それ以降DHの役割は消滅する。

⑤ DHが守備位置についた場合。

⑥ 他の守備位置についていたプレーヤーが投手になった場合。

【審判員に関して】

1. ・派遣審判員、チーム審判員は所定の時間に本部に集合し指示を仰ぐこと。
   第1試合開始予定1時間前、第2試合開始予定以降は30分前に集合して本部にて待機すること。
   （後審に入る場合は、該当試合前に本部に連絡すること。）
2. ・審判帽子、審判スラックス、審判上着又は無地で水色・紺・黒色、黒色の靴、黒または紺色の長靴下を着用する。
   （派遣審判員は、足少連審判服装が望ましい。）
3. ・控え審判員も審判員と同様の服装を着用すること。
4. ・チームジャンパー、時計、リストバンドは不可とするが、飛沫感染防止マスクについては、
   大会本部の指示に従うこと。
   注1 感染防止対策として飛沫感染防止マスクの着用を義務図かれている期間等。
   注2 熱中症予防対策として飛沫感染防止マスクを外さねばならない期間等。
5. ・試合前、試合後の責任審判立合いのもとクルーミーティングを行うこと。
6. ・球審は、J.S.B. Bマーク、S.Gマーク付きマスク、プロテックター、ファールカップを装着すること。
   （安全上、レーガースの装着をお勧めいたします。）
7. ・チーム審判は、各チーム2名。（塁審2、控え審判2）
8. ・ヒット・バイ・ピッチ（死球）の判定
   打者が投球を打者席の捕手寄り（後方向）に移動しても良いこととする。
9. ・塁審、控え審判のサングラスの着用はみとめるが、帽子の庇の上に置くこと及びミラーレンズは不可とする。

【用具、装具等について】

1. ・バットは、公認野球規則で、規定されるものの、次による。
   ①バットは、一本の木材で作った木製バットのほか竹片、木片などの接合バットであること。
   （木製バットについては公認制度を適用しないが、着色の制限はある。）
   ②金属、ハイコンバット（複合）は、J.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認のものに限る。
   素振り用パイプ及びリングの使用を禁止する。
   注1 少年・少女（中等部）は、学童用バットの使用はできない。
   注2 後付けグリップ等、市販のJ.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認バットに付け足しや改造が
   見受けられた場合は、使用禁止とする。
   但し専用テープ等で固定し、被覆されたなだらかな形状のものであれば使用を認める。
   ③一般用（中学生・大人）高反発バットの使用について
   ・ 2025年から学童が、一般用高反発バットの使用はみとめないこととする。
   注：2024年については、使用をしてもよいが、グランドにおいては使用出来ないグランドがあるので、各グランド・
   ルールを事前に確認をすること。

2. ・捕手はJ.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認レガース、プロテクターおよびSGマーク付きのマスク（スローガード付）、捕手用ヘルメットを着用しなければならない。またファールカップも着用しなければならない。

商品統一化について （現在使用している既存製品は引き続き使用出来ます）

1. 統一商品につて

捕手用マスク、プロテクター、レガーズ（ヘルメットは対象外となります）

2. 公認マークについて

例）

＊左図は、公認マークの表示の一例です。製品によっては、横並びで、表示される等、表記配列が異なる場合があります。

3. SG基準について

捕手用マスクはSGマークがつきますが、「軟式」「ソフト」両方の表記となります。

例）

＊軟式一般用と3号ゴムソフトボール用で使用可能

3. ・打者、次打席者、奏者、ベースコーチは、J.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認およびSGマークのついた両側にイヤーラップのついたヘルメットを着用しなければならない。

※ヘルメットの耐用期間は3年であること、一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットを再度利用することは危険であること、ヘルメットが外部から受ける衝撃の軽減を図るものであり全ての傷害を防ぐものではないということを理解のうえ、使用すること。

ヘルメットの使用に当たっては取扱説明書をよく読み、その内容に従って使用・管理を行うこと。

4. 顎ガード付きヘルメットの使用について

（1）SG基準改正後にSG基準を満たしたものに限り使用を認める。

（2）SG基準改正後にSG基準を満たした顎ガード付きヘルメットであっても、不正な改造（使用上認められてないにも関わらずパーツを勝手に取り付けるなど）をしたり、破損していたりする場合など、安全性を欠く場合には使用できない。

（3）既に使用・保有してる顎ガードのないヘルメットに、後から顎ガードを取付けることは認められない。

（4）ヘルメットの使用、管理および耐用期間等は、上3項に準じること。　（顎ガード部分への衝撃を含む）

5. ・ボール、バット係も同様のヘルメットを着用のこと。　（球審にボールを渡す時にヘルメットを脱ぐ必要はない。）

6. ・ユニフォームのロングパンツは禁止とする。（監督・コーチ含む）

7. ・スパイクの色は、自由とし、全員同色でなくても構わない。（監督コーチ含む）

学童部の試合に限り運動靴でも認めるが、金属スパイクは使用できない。

8. ・ サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。

① 投手のサングラスの使用を認める。ただしミラーレンズは、除く。

② 監督は、選手交代・抗議等の際は外すこと。　③ 野手がサングラスを庇の上に乗せることを認める。

9.　保護具の商標表示について

1. 手袋	商標表示:1か所(手の甲側)	大きさ：14㎠以下	色の規制なし
2. リストバンド	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	色の規制なし
	商標表示:1か所	ﾊﾞﾝﾄﾞの長さ：14㎠以下	
3. サポーター	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	色の規制なし
4. アームスリーブ(野手)	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	色の規制なし片袖可
アームスリーブ(投手)	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	アンダーシャツと同色で両袖
5. レックガード	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	色の規制なし
6. エルボーガード	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	色の規制なし
7. 手甲ガード	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	色の規制なし
8. リストガード	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	色の規制なし
9. ネックウォーマー	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	色の規制なし
10. 走塁ガード手袋	商標表示:1か所	大きさ：14㎠以下	色の規制なし

※各保護具への「ネーム」「背番号」の刺繍は認めることとし、色の規制も行わない。

10.　防寒対策等について

①　ネックウォーマーは、季節を考慮して着用することができる。

②　監督が季節や天候により、グランドコートを着用している場合

監督は、アピールや選手交代などをするときには、その身分を明らかにするために、グランドコートを脱いで申し出ること。(背番号の確認)

③　ベースコーチと走者となった投手は、グランドコートを着用することができる。

次頁につづく

11.　グラブについて

位置 / 用具	捕手	一塁手	捕手・一塁手以外の野手
キャッチャーミット	○	×	×
ファーストミット	○	○	×
グラブ	○	○	○

安全上、捕手はキャッチャーミットの使用をお勧めします。

全軟連の取扱い

［投手用］　① 捕球面・背面・網（ヴェブ）は、2色まで可とする。

ただし白/グレー/PANTONE®の色基準14番よりうすい色の使用は禁止。

足少連の取扱い［投手用クラブの一例］

注：上部大会においては用具点検時に、はじかれる恐れがあるので予備グラブを用意したほうが良い。

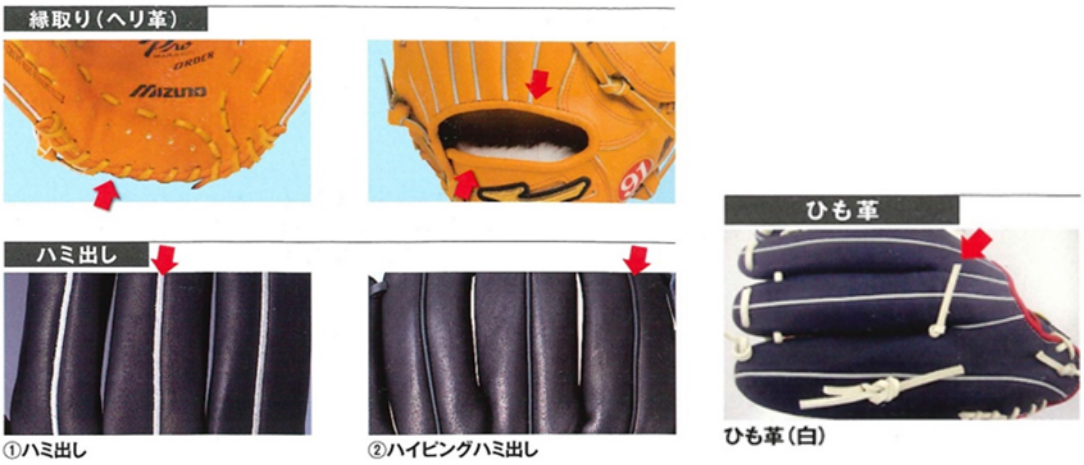
上部大会出場チームは、抽選会にて確認すること。

○　使用可

×　使用不可

② ハミダシ、紐、指かけ、柄模様についても制限なし。

●グラブパーツ名称



③ 氏名・背番号・チーム名などの刺繍糸の色、大きさ共に制限なし。

［野手用］　公認規則書3.07の「守備位置に関係なく、野手はPANTONE®の色基準14番よりうすい色のグラブを使用することはできない。」は適用しない。

【その他注意事項】

1. ・チーム旗、横断幕はグランド内の掲示を禁止する。
2. ・バックネット裏の観戦は禁止とする。（一般人を除く）ただし、ビデオ設置は可とする。
3. ・観覧席があるときは指定の場所で観戦する。
4. ・自転車での移動は十分注意する。(2020年4月より自転車保険が義務化されました。）
5. ・学童の試合のホームベースは、一般用を使用する。
6. ・投手の12秒及び20秒ルールの取扱いは適用しない。
7. ・試合のスピード化、マナーに関する確認事項（チーム・選手・審判）【競技者必携2024　P15～P16参照】
8. ・没収試合の防止について【競技者必携P73～P79（37）参照】

平成26年04月27日　制定
平成29年01月19日　追加・一部改訂
平成31年04月21日　追加・一部改訂
令和03年04月15日　追加・一部改訂
令和04年02月09日　追加・一部改訂
令和04年07月13日　追加・一部改訂
令和05年04月18日　追加・一部改訂
令和06年02月20日　追加・一部改訂
令和06年02月27日　一部修正
令和06年04月11日　加筆改訂